第１学年　生活科学習指導案

展開場所　　アリーナ

１　単元名　　きせつと　なかよし　ふゆ　　小単元名　　かぜとあそぼう
内容（５）「季節の変化と生活」（６）「自然や物を使った遊び」

２　単元について

（１）単元観

本単元は、小学校学習指導要領の内容（５）「身近な自然を観察したり、季節や地域の行事に関わったりするなどの活動を通して、それらの違いや特徴を見つけることができ、自然の様子や四季の変化、季節によって生活の様子が変わることに気付くとともに、それらを取り入れ自分の生活を楽しくしようとする」と（６）「身近な自然を利用したり、身近にある物を使ったりするなどして遊ぶ活動を通して、遊びや遊びに使う物を工夫して作ることができ、その面白さや自然の不思議さに気付くとともに、皆と楽しみながら遊びを創り出そうとする」の２つの内容を受け、設定したものである。児童が身近な自然に接し、四季の変化を楽しむ中で「冬」という季節の特徴やその素晴らしさに気付くとともに、それらを取り入れながら自分の生活をより豊かにしようとすることを目指している。

（２）児童観

児童は、これまで春、夏、秋と、校庭や身近な公園（西千葉公園）で自然と繰り返し関わってきている。西千葉公園の広場で春は「春見つけビンゴ」や草花遊び、夏の終わりは小さな生き物見付け、秋は「秋見つけビンゴ」や木の実や葉を拾うなどして楽しんだ。同じ公園で繰り返し活動を行うことにより、「春にはきれいな花がいっぱい咲いていたけれど、夏は草が増えてバッタがいたよ」「秋になるときれいな葉っぱが落ちていたよ」という視覚的に捉えやすい植物や環境の変化などに目を向けられるようになってきた。しかし、本単元に関わる実態調査では、身近な生活の中から風を感じているものの、風で遊んだ経験は「ない」と答えている子供が多いため、目に見えない自然の様子にも目を向けられるように指導していきたい。

（３）教材観

本単元では、春、夏、秋と季節ごとの自然に関わってきた経験を生かし、興味をもって植物や動物の様子を調べたり、冬ならではの風（できれば雪や氷）を使った遊びを試行錯誤しながら楽しんだりする活動を十分に取り入れていく。植物や動物の様子については、これまで春、夏、秋と活動した西千葉公園へ行き、「冬見つけビンゴ」などを通して、植物、動物や環境の変化を気付けるようにする。冬ならではの遊びとして、「風」に注目したい。教科書 100 ページの「どうやってかぜをつかまえようかな」のリード文を基に、目には見えない「風」を捉えるための方法を皆で探っていく。風をとらえるには、実際に触ったときや物に当てたときの手応え、物の動き（揺れる、飛ぶ、動く、膨らむなど）が考えられる。冬の風をとらえる遊びを十分に行うことにより、風について様々なことに気付き、「もっと風と遊んでみたい」「風を使ったおもちゃを作ってみたい」などの思いや願いをもつだろう。その思いや願いを基に風を使ったおもちゃ作りにつなげていく。風をうまくとらえるためにはどのようにしたらよいか、試行錯誤しながら作り方や遊び方を工夫できるような場の設定や、伝え合い活動により気付きの質を高めていきたい。なお、雪や氷については、地域柄、活動に取り入れられない可能性が高いため、適宜触れるようにしていく。

３　単元の目標

冬の自然に関わる活動を通して、冬の特徴や春や夏、秋との違いを見付け、遊びや遊びに使うものを工夫して作ることができ、自然の様子や季節の変化、季節によって生活の様子が変わること、冬の自然遊びのおもしろさや自然の不思議さ、遊びの準備や後片付けの大切さに気付き、みんなと楽しみながら遊びや生活を楽しく創り出すことができるようにする。

４　単元の観点別評価規準

		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
		○冬の自然に関わる活動を通して、自然の様子や季節の変化、季節によって生活の様子が変わること、冬の自然遊びのおもしろさや自然の不思議さ、遊びの準備や後片付けの大切さに気付いている。	○冬の自然に関わる活動を通して、冬の特徴や春や夏、秋との違いを見付け、遊びや遊びに使うものを工夫して作っている。	○冬の自然に関わる活動を通して、みんなと楽しみながら遊びや生活を楽しく創り出そうとしている。
小単元における評価規準	1	①冬の校庭や公園の様子が変化してきていることに気付いている。	①冬の校庭や公園の様子を秋の様子と比べながら、どのように変化しているのかを予想している。	①冬の校庭や公園でできる遊びを楽しもうとしている。
	2	②風の力や遊びの楽しさ、遊びを工夫するおもしろさに気付いている。 ③皆で楽しく遊ぶ際、道具や用具の準備や片付け、掃除、整理整頓をしている。	②風の力で動くものや風で遊ぶおもちゃの動きを予想したり、確かめたり、見直したりしながら、おもちゃを作ったり楽しんだりしている。	②粘り強く風をとらえようとしたり、おもちゃを作ったり、それを用いて友達と楽しく遊んだりしようとしている。
	3	④冬の校庭や公園の様子から、自然の中のきまり、自然の不思議さに気付いている。	③諸感覚を生かして、冬の自然に関わったり、冬の特徴を確かめたりしながら、動植物を見付けている。	③冬の校庭や公園の変化に関心をもって、冬の特徴を見付けようとしている。
	4	⑤冬の植物や生き物の様子の変化に気付いている。	④冬の植物や生き物の様子を秋の様子と比較しながら捉えている。	④冬の植物や生き物に関心をもち、観察したり調べたりしようとしている。
	5	⑥雪遊びや、氷ができることの楽しさに気付いている。	⑤雪が解けにくい場所や、氷が作りやすい場所を比べながら遊んでいる。	⑤友達と協力して雪遊びや氷づくりをしたいという願いをもって、遊びを創り出そうとしている。

	6	⑦これまでの学習を振り返り、冬と仲良くなることができた自分の成長に気付いている。	⑥冬の自然と関わった遊びを振り返って、遊びを楽しく工夫したこと、楽しく友達と遊んだこと、季節の変化が自分たちの生活と関わっていることを伝え合っている。	⑥冬について感じたことを基に、学んだことをこれからの日常生活に生かそうとしている。

５　指導と評価の計画（15 時間扱い）

次	主な学習活動	教師の指導・支援（○）評価（☆）
第一次「ふゆとなかよくなりたいな」①	ふゆとなかよくなるほうほうをかんがえよう。 ○冬になり、周囲の様子が変わったことについて話し合い、冬の校庭や公園の変化を予想する。冬の校庭や公園でどんなことをしたいか考える。（１）	○学校を始め、家庭や地域に目を向けながら、自分の生活や身近なところでどのような冬を見付けたか問いかける。 ○以前の様子を想起できるように、春、夏、秋の公園での活動の様子や自然の様子の写真を提示する。 ○これまで繰り返し関わってきた公園に行くことを設定する。 ○これまでの経験を想起し、遊びの計画を立てるよう声をかける。 ☆知・技①【行動観察・発言分析】 ☆思・判・表①【行動観察・発言分析】 ☆主体①【行動観察・発言分析】

第二次「かぜと　あそぼう」⑦	かぜといっしょにあそぼう。	
	○冬の風を使った遊びにはどのようなものがあるのか考える。（1）	○風を使った遊びを想起して話し合うために、ウェビングマップを用いる。
	○冬の校庭でいろいろな方法で風をつかまえる。（1）	○風の冷たさ、強さなどを諸感覚で感じ取るために、校庭で活動する。 ○前時の話合いでの子供の思いや願いを基に、必要な道具を準備する。 ○次時の活動につなげるために、風と遊んで感じたことや思いや願いを伝え合う時間を設ける。
	○前時までの経験を基に、もっと風をつかまえる方法を考え、遊ぶ。（1）本時	○前時の活動を振り返り、子供の思いや願いを確認する。 ○活動の場所をアリーナとし、サーキュレーター、大型扇風機を活用する。 ○次時の活動につなげるために、風をつかまえてみて感じたことや思いや願いを伝え合う時間を設ける。
	○風と遊べる道具（おもちゃ）を作ったり、遊んだりする。（3）	○前時の活動を振り返り、子供の思いや願いを確認する。 ○子供の思いや願いに応じて、簡単なおもちゃの作り方を紹介する。
	○工夫したことや、楽しかったことを伝え合い、学習を振り返る。（1）	○身近にある風といろいろなことができること、遊びの中での気付きなどを共有する。 ☆知・技②【行動観察・発言や表現物の分析】 ☆知・技③【行動観察】 ☆思・判・表②【行動観察・発言や表現物の分析】 ☆主体②【行動観察・発言やカードの分析】
第三次「ふゆを　見つけに　いこう」②	こうえんでふゆを見つけよう。	
	○諸感覚を使い、秋の様子と比較しながら植物や生き物の様子を調べたり、風などに触れたり、友達と関わったりする。（2）	○どのような視点で冬探しをしたらよいかを全体で共有する。 ○お互いの気付きを関連付け、冬の自然の特徴や冬の遊びの楽しさに気付くように、見付けた冬を紹介し合う場を設ける。 ○見付けた冬の自然や、友達の活動した様子を表現するためのカードを準備する。 ☆知・技③【行動観察・発言】 ☆思・判・表②【行動観察・発言やカードの分析】 ☆主体②【行動観察・発言やカードの分析】

第四次「生きものの　わくわく　クイズ」②	ふゆの生きものをさがしにいこう。	
	○冬探しを基に、冬の校庭に行き、冬の生き物をじっくり観察する。（１）	○生き物についての思いや願いをもつために、友達の発表を聞く場を設け、校庭の生き物探しの活動につなげる。 ○対象の特徴を既知のものと結びつけるために、「○○みたい」と例える思考を促すような声かけをする。 ○生き物が冬を越すために姿を変えていることや隠れていること、いなくなったものもあるということに気付くような声かけをする。
	○冬の生き物について、本などを用いて調べ、観察カードを書いて振り返る。（１）	○学習を通して楽しかったこと、初めて知ったことについて共有する場を設ける。 ☆知・技⑤【行動観察・発言やカード分析】 ☆思・判・表④【行動観察・発言やカード分析】 ☆主体④【行動観察・発言やカード分析】
第五次「ゆきや　こおりで　あそぼう」②	ゆきやこおりであそぼう。	
	○雪や氷を使った遊びについて知る。（１）	○雪や氷で遊んでみたいという意欲を高めるために、教科書 102、103 ページの写真を提示する。
	○校庭で、雪や氷を使った遊びを行う。（１）	○地域柄や天候により実施するのは難しい可能性が高いため、適宜行うことを児童に伝える。 ○氷作りなど実施できそうな活動を行う。 ☆知・技⑥【行動観察・発言】 ☆思・判・表⑤【行動観察・発言】 ☆主体⑤【行動観察・発言】
第六次「なにを　かんじたかな」①	ふゆとなかよくなれたかふりかえろう。	
	○気付いたことや楽しかったことを絵や文にしてカードにまとめて、学級全体で伝え合う。（１）	○これまでの学習を想起するために、活動の写真などを提示する。 ○冬と仲良くなってきた自分に目を向けられるように、冬の遊びの中で自分が工夫したことや楽しかったことを伝え合う場を設ける。 ☆知・技⑦【発言・カード分析】 ☆思・判・表⑥【行動観察・発言やカード分析】 ☆主体⑥【発言・カード分析】

６　研究の視点

視点１　子供が心を動かし、主体的に思いや願いを実現しようとする指導・支援の工夫

【対象に繰り返し関わることができる単元構成の工夫】

本単元は、「冬」という季節の特徴やその素晴らしさに気付くとともに、それらを取り入れながら自分の生活をより豊かにしようとすることを目指している。植物や生き物、風、雪や氷と大きく分けて３つの自然に触れ、冬の楽しさを味わわせたい。そこで、以下の手立てをとることで、対象に繰り返し関わることができると考えた。

①同じ場所で自然との関わりを繰り返す

子供たちはこれまで、春の公園探検、夏の生き物探し、秋の公園探検と、繰り返し西千葉公園を訪れている。また、校庭での春探し、夏の遊び、秋探しの活動も行っている。春、夏、秋と遊びを楽しんできた子供たちは「冬探しもしたい」「冬の公園も行ってみたい」という思いや願いをもつだろう。そこで、冬も西千葉公園や校庭での活動を行う。西千葉公園のよさは、野原が広がり、様々な植物や生き物がいることである。校庭のよさは、「緑の小道」に多くの植物があること、気軽に何度でも観察ができることである。繰り返し同じ場所で活動を行うことで、前にはなかったものを見付けたり、あったものの変化を比べたりするなど、様々な視点から冬の特徴に気付くことができると考えられる。

②試行錯誤する遊びの場の工夫

冬の自然の一つとして風（北風）を取り入れる。教科書 100 ページのリード文「どうやってかぜをつかまえようかな」を基に、自分が考えた方法で冬の風を見付けたり、つかまえたりする活動を校庭で十分に行う。校庭の自然な風を「冬の風は冷たい」「走ると顔に当たる」など諸感覚を使って体感させたい。その遊びから「もっと飛ばしてみたい」「いろいろな風に触ってみたい」「強い風だとどうかな」という思いや願いをもつだろう。そこで、今度はサーキュレーターや大型扇風機を使用し人工的に風を起こす。風の強弱による違いや、風をつかまえる材料の大きさの違い、材料の素材の違いなどを試し、いろいろな角度から試行錯誤して風に働きかけられるようにしたい。十分に風の力を感じた後、「風で動くおもちゃを作ってみたい」という思いの基におもちゃ作りにつなげていく。

視点２　「人」「もの」「こと」との関わりを通して気付きの質を高める手立ての工夫

【個々の気付きを伝え合う「きいてきいてタイム」】

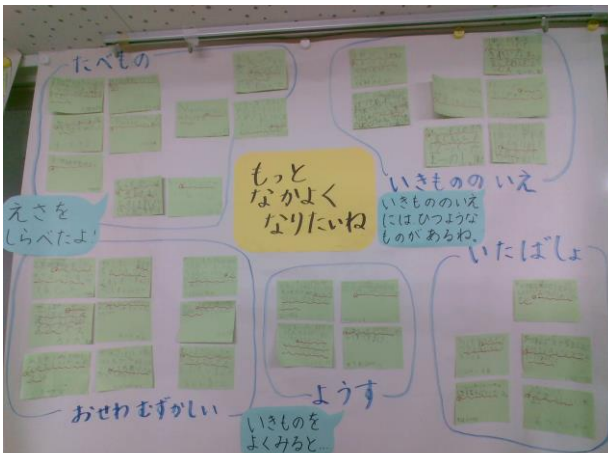
個々の気付きを伝え合う場として「きいてきいてタイム」を必要に応じて設ける。まずその学習の時間の振り返りとして気付いたことを付箋に書く。この活動が、無自覚な気付きを自覚された気付きへと質を高めていく。この付箋を基に自分の気付きを発表する。「ビニル袋を大きくして風に当てたら手応えが大きくなった」という気付きから「同じことを気付いたよ」「もしかしたら遠くに飛ぶかもしれない」など個々の気付きを取り上げ、教師が付箋を動かし、関連付けていくことでさらに気付きの質を高めていく。この「きいてきいてタイム」を積み重ねていくことで、「まなびメーター」など小単元ごとの振り返りや学習全体の振り返りにおける気付きの質を高めることができると考える。

また、気付きの質を高めていくためには、教師の声かけがとても重要になる。子供たちは活動の中で「どうしてこうなるのかな」という問いや、「もっとこうしてみたい」という思いをもち、それを誰かに伝えたくなったり、助言を求めたりするだろう。その際、「よく見付けたね」と発見を認めたり、「どうしてこうなると思う？」と理由や原因を聞いたりするなどして、子供の気付きの価値付けをすることで、自信をもって活動を続けられると考える。どの単元でも気付きの質を高めるための声かけを意識してい

きたい。

【気付きを可視化する付箋の活用】

夏休み前までの学習の中で、ウェビングマップを活用して活動の振り返りをし、子供たちの気付きを可視化してきた。しかし、発達段階として個人で作成することは難しく、教師が子供たちの気付きを集約して示してきたが、発言ができる一部の子供たちの気付きに偏ってしまっていた。そこで、「きいてきいてタイム」で書いた付箋を模造紙に貼ったものを常に見られるように掲示する。学習の流れや、気付きの関連、自分や友達の思いや願いが可視化され、友達の気付きを知ることができたり、友達や自分のよさを認識したりすることができる。気付きを価値付けるものとして、吹き出しなどで教師のコメントも入れるようにしたい。



7　本時の指導

（1）目標

いろいろな方法で風をつかまえる活動を通して、風の力で動くものの動きを予想したり、確かめたり、見直したりしながら、風を使った遊びを楽しむことができる。　【思考力、判断力、表現力等】

（2）本時で大切にしたい思いや願い

・風をつかまえてみたい。
・風にはどんな力があるのかな。
・風ともっと遊んでみたい。

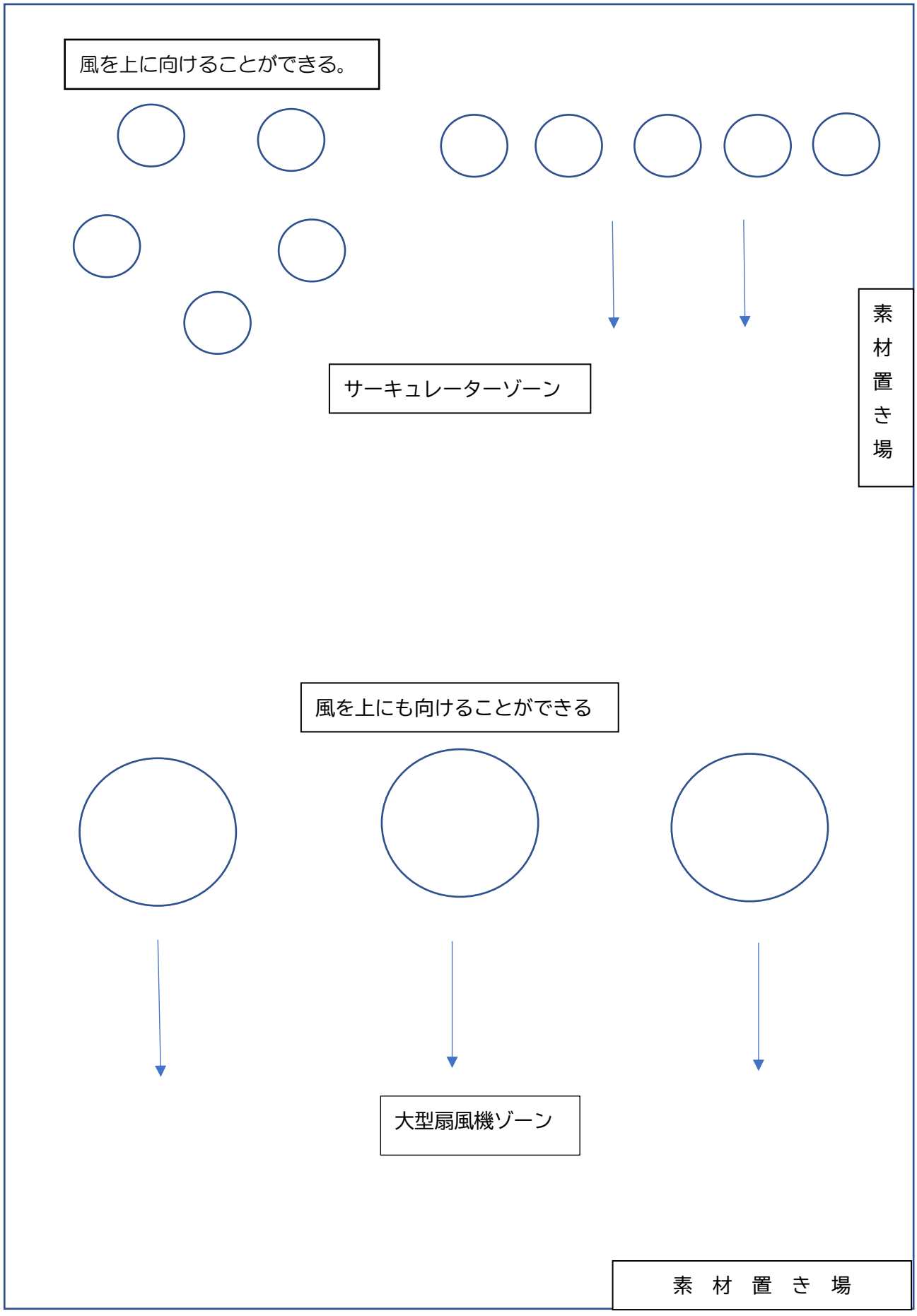
（3）展開（本時４／15）

主な学習活動	教師の指導・支援（○）評価（☆）
1　前時までを振り返り、本時のめあてを確認する。 ・風が冷たかったよ。 ・風が吹くとビニル袋が膨らんだよ。 ・走ると顔に風が当たったよ。	○前時の活動（校庭で風をつかまえた経験）を「きいてきいてタイム」の掲示物を見ながら振り返り、子供の思いや願いを確認する。
もっとかぜをつかまえてみよう。	
2　思いや願いをもとに、どうやって風をつかまえるか、活動の見通しをもつ。 ・大きなビニル袋にいっぱいつかまえてみたい。 ・風に触って、手応えを感じたい。	○前時の活動から、風の強弱の変化で遊んでみたいという願いが生まれると予想されるため、活動の場所をアリーナとし、サーキュレーター、大型扇風機を準備する。 ○子供たちの思いや願いを基に、必要な材料（布、

・アリーナでも風は冷たいか確かめたい。	ビニル袋など）を準備する。 ○風をつかまえる方法を明確にするために、個々の方法を伝えるよう促す。 ○安全に活動できるよう、場の工夫をする。道具の使い方やアリーナでの遊び方や約束を確認する。
3　それぞれに考えた方法で風をつかまえて楽しむ。 ・風に触ると、外の風と比べてあまり冷たくなかった。 ・ビニル袋を大きくするとたくさん風をつかまえられた。 ・風が強いのと弱いのとで比べてみよう。	○子供の活動の様子を見て回り、子供の活動が主体的に進むよう、必要に応じて助言する。軌道に乗って円滑に進んでいるようならば、任せる。 ○子供の発言や気付きに対し、「よく見付けたね」「前と比べるとどうかな」など価値付ける助言をするよう心がける。 ☆いろいろな方法で風をつかまえる活動を通して、風の力で動くものの動きを予想したり、確かめたり、見直したりしながら、風を使った遊びを楽しんでいる。　【思・判・表】
4　活動を振り返り、風をつかまえてみて気付いたことを付箋に書く。	○事実だけではなく、比較や原因、理由なども書くよう伝える。
5　活動を通して気付いたことを発表し合う。（「きいてきいてタイム」） この大きさのビニル袋に風を当てたらよく飛んだよ。大きい方がよく飛ぶのかな。 わたしもやってみたよ。本当によく飛んだね。もっと風を強くしてみたいな。 弱い風だとふわっと飛んだよ。風船とか紙飛行機がちょうどよさそう。 紙飛行機、飛ばしてみたいな。他にも風を使って遊べそうだね。 	○次時の活動につなげるために、風をつかまえてみて感じたことや思いや願いを伝え合う時間を設ける。（「きいてきいてタイム」） ○子供が発表した付箋を模造紙に貼り、可視化する。 ○発表内容に対し、似ている気付きや関係する気付きはないか発言を促し、気付きを関連付けるように、付箋を貼り直していく。 ○子供が発言や気付きに自信がもてるよう、その発表に対して価値付ける声かけを心がける。
6　思いや願いを聞き、次時の活動の見通しをもつ。 ・風で動くおもちゃを作ってみたいな。 ・風車を回してみたいな。 ・紙飛行機を作りたいな。	○活動の見通しをもつために、次は風とどんな遊びをしたいか問う。 ○考えた遊びをするためには、どの場所で行うか、何が必要かを問う。

（４）場の設定図

【アリーナ】


風を上に向けることができる。
サーキュレーターゾーン
素材置き場
風を上にも向けることができる
大型扇風機ゾーン
素　材　置　き　場